2008年2月1日

中国産冷凍ギョーザによる薬物中毒事件に対する談話

日本食品関連産業労働組合総連合会
事務局長　江森　孝至

1．1月30日、ジェイティフーズ株式会社が中国から輸入した冷凍ギョーザが原因と思われる薬物中毒事件が千葉・兵庫両県で発生したことが判明し、現在、日・中両国で調査が行われている。また本日、全たばこ労組からフード連合に対してお詫びと状況の説明があった。

　フード連合としても、今回の中毒事件の被害者となった方々に対して心からお詫びを申し上げるとともに、一日も早い回復をお祈りします。

2．昨年、食の安全・安心を脅かす事件が相次いだ中で、再び消費者・国民の信頼を裏切る事件が発生したことはきわめて遺憾である。また、安全を確認できないまま食品を輸入して販売した企業の責任も大きい。食品および原材料を輸入している各食品企業は、今回の事件を自らの問題として受け止めて、輸入先の生産体制の点検を行うなどのチェック体制を強化すべきである。

　また、今回の事件で、輸入する水際での検疫体制に限界があることも浮き彫りになった。食のグローバル化が進む中で、食の安全を確保するためには、企業・行政等が連携した多面的なチェック体制の強化が不可欠である。

3．政府は、関係企業や中国政府とも協力して、冷凍ギョーザを製造した「天洋食品」で、薬物がどこで、なぜ混入したのか早急に調査し、結果を公表するとともに、中国政府に対して徹底した再発防止策を要求すべきである。また、他の工場等で同様の事件が発生することのないよう全国的な点検活動を行うことを要請すべきである。

4．今回の事件は、食のグローバル化が進む中で発生した象徴的な事件である。

　食のグローバル化が進む一方で、我が国の食料自給率は、先進諸国でもっとも低い39%にとどまっている。また、開発途上国での食生活の変化や穀物のバイオエタノールへの利用等で世界的に穀物価格が高騰しており、こうした傾向は中長期的に続くと見なければならず、我が国の食料自給率の向上は食料安全保障の観点からも喫緊の課題となっている。

5．フード連合は、食のグローバル化が進む中で食の安全・安心を確保していくため、職場での自らの点検活動の強化にとどまることなく、輸入食品に対するチェック体制の強化を経営に求めていくとともに、国に対しては検疫体制の強化を求めていく。

―以　上―